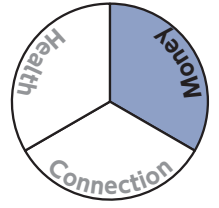


欧州 ～白紙に戻ったポスト・メルケル～



経済調査部 首席エコノミスト 田中理 (たなか おさむ)

後継首相候補が党首辞任を表明

2005年11月からドイツを率いるメルケル首相は、来年秋に予定される次の連邦議会選挙での政界引退の可能性を示唆している。当初、後継首相候補と目されていたのは、2018年12月に与党・キリスト教民主同盟(CDU)の党首に選出されたクランプ=カレンバウアー氏だった。欧州委員会の委員長に就任したフォン・デア・ライエン氏の後を継ぎ、2019年7月からは国防相を兼務してきた。だが、党首就任後の相次ぐ失言や党運営で十分なリーダーシップを発揮できず、後継候補としての資質を疑問視する声も浮上していた。

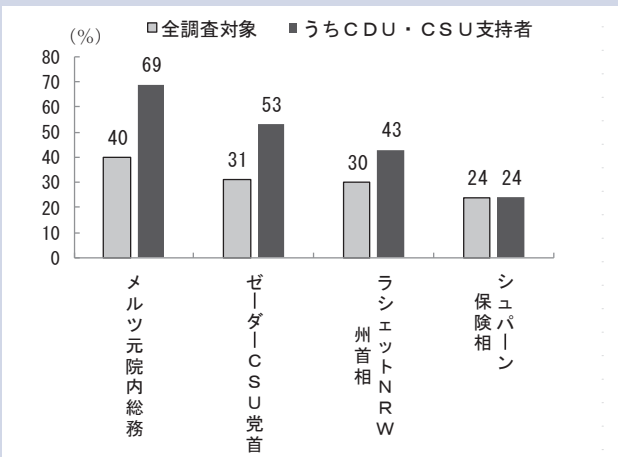
今年2月に旧東ドイツのチューリンゲン州の州首相選出を巡って、同州の所属議員団の説得に失敗したことが最終的な引き金となり、クランプ=カレンバウアー氏は党首を辞任するとともに、与党の後継首相候補に立候補しないことを表明した。連邦議会選を翌年に控えたタイミングで、ポスト・メルケルの行方は白紙に戻ってしまった。4月25日に予定される後継党首選には、①ノルトライン=ヴェストファーレン州のラシェット州首相、②メルツ元院内総務、③レットゲン元環境相が立候補している。さらに、バイエルン州で活動する姉妹政党・キリスト教社会同盟(CSU)のゼーダー党首を加えた4人が後継首相候補となろう。

親メルケルと反メルケルの争い

ラシェット氏は中道穏健派でメルケル路線を踏襲するとみられている。メルツ氏はメルケル首相のかつてのライバルで、メルケル政権下で中道化した党の保守回帰を目指している。リベラル派のレッドゲン氏はドイツが脱原発に方針転換した際の環境相で、外交問題にも明るい。メルケル首相に更迭された経緯もあり、不仲が伝えられる。メルツ氏やレッドゲン氏が党首に就任した場合、メルケル首相の早期退陣観測が浮上する可能性がある。もっとも、ドイツは今年後半に輪番制の欧州連合(EU)の議長国を務める。EUの多年度予算、難民政策の見直し、英国との将来関係協議など重要な議題が山積で、このタイミングでの首相交代は回避される公算が大きい。

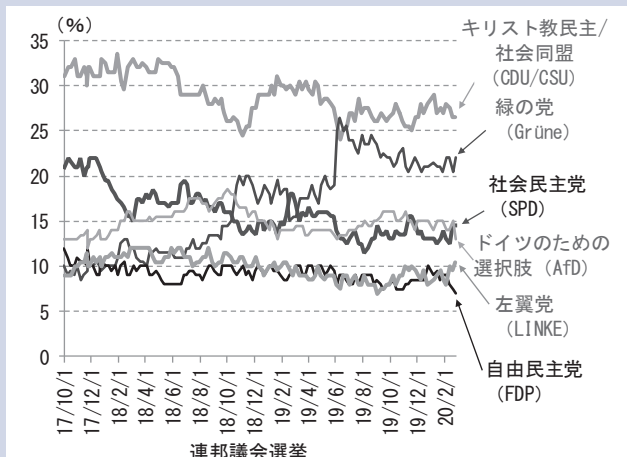
最近の世論調査によれば、与党CDUは次の連邦議会選挙で最多議席の獲得が予想されるが、単独での政権発足は困難な状況にある。このところ急速に支持を伸ばす環境政党・緑の党との連立が有力視されている。なかでも親ビジネス路線のメルツ氏が後継党首となった場合、緑の党との連立協議は難航しそうだ。ドイツのリーダーシップと次期政権の行方は、欧州の政治安定やEUの政策運営にも大きな影響力を持つ。仕切り直しとなるポスト・メルケルの行方に注目が集まる。

資料1 ドイツ与党保守政党の首相候補の世論調査



(出所) infratest dimap資料より第一生命経済研究所作成

資料2 ドイツ連邦議会選挙の支持率調査



(出所) INSA資料より第一生命経済研究所作成